



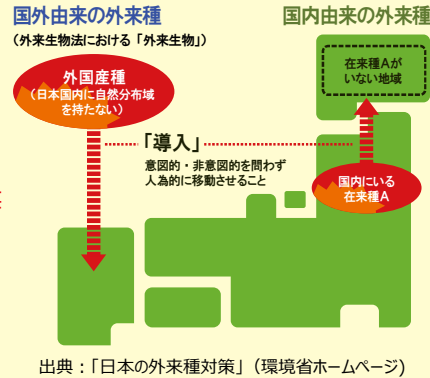
印旛沼の特定外来生物について教えて!

「特定外来生物」って何?

外来種とは、もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを指します（渡り鳥、海流で移動する魚や植物の種などは外来種ではありません。）

外来種の中で、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるものを、特に侵略的外来種といいます。「**特定外来生物**」とは、**外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から、国が法に基づき指定したものです。**

平成16年に外来生物法が制定され、特定外来生物を指定し、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いを規制し、その防除等を行うこととしています。



「カミツキガメ」～北中米原産の凶暴ガメ～



北アメリカから中米原産。さまざまな生物を補食する広食性です。水際に生息していますが、陸に上げられた個体は攻撃的で、かみつかれるなどの危険性があります。

県や自治体などがわなをしかけたりして駆除活動を行っています。

出典：「印旛沼流域情報マップ」
(千葉県印旛土木事務所)

「ナガエツルノゲイトウ」～南米原産のゾンビ植物～

生態

南アメリカ原産の外来種で、水辺の湿った環境に生える多年草です。繁殖能力が極めて高く、除去作業によって短くちぎれた茎などからでも個体が再生します。岸辺に根を下ろし、茎と葉が水面を広くおおって在来の植物を追いやり、水の流れをさまたげたりします。

害

短くちぎれた茎などからでも再生するため、かんがいを通じて水田へも侵入し、増殖することで農作物の生育をさまたげたりします。農業用水のポンプがナガエツルノゲイトウを吸い込むことでスクリーンに目詰まりが生じ、ポンプ運転に支障をきたしています。洪水のときには、群落が大挙して排水機場のスクリーンに張り付き、排水の能力を大きく低下させる障害を起こしています。

対策

現時点での対策は機械や人力による物理的な駆除に限られています。除去作業ではちぎれた茎が飛散しないよう、ブルーシートでおおつとともに、除去した茎葉は自治体で焼却処分を行います。印旛沼では平成20年代になって、流入する桑納川や神崎川において、行政や地域住民、企業、NPO、国際ボランティア学生協会（IVUSA）などによる駆除活動が行われています。千葉県でも分布状況の調査や駆除対策に乗り出しています。



ナガエツルノゲイトウ (中央)



桑納川での繁茂状況



大和田機場への漂着状況



ポンプ運転時のスクリーン除塵



IVUSAの学生たちによる駆除活動



さまざまな主体が駆除活動に参加

「オオクチバス・ブルーギル」～北米原産の大食魚～



北アメリカ原産。侵入した湖沼などで在来種の種類・個体数が減少します。在来種の生物相に変化が生じます。

北アメリカ東部原産。湖沼やため池、堀などに侵入・定着し、優先魚種となって、既存の生態系をおびやかします。

出典：「印旛沼流域情報マップ」(千葉県印旛土木事務所)

この他にも、植物ではオオバナミズキンバイやオオフサモ、魚類ではコグチバスなどが特定外来生物で、既存の生態系を追いやっています。

特定外来生物を野外に放つたり、植えたり、まいたり、持ち去つたりすることは法律で禁止されており、違反した場合には罰せられます。



独立行政法人 Japan Water Agency 水資源機構
千葉県水資源機構
千葉県八千代市村上3139(大和田機場横) TEL(047)483-0722